

2018年1月15日

三鍋敏郎

積雪が少なく厳冬期でも簡単に登れる鈴鹿山系の御在所岳周辺の低山が近頃気に入って頻繁に出かける。

八風キャンプ場の上部、八風溪沿いの林道に登山届用の小さな小屋がありその少し上に駐車スペースがある。その先の林道は花崗岩の丸い巨岩で封鎖されている。

登山準備を整え、八風溪沿いの林道を歩く積雪は路面全体が隠れる程度で、ワカンの出番は無いと思ったが一応担いで行く。暫くは植林帯だが、少し進むとカシなどの常緑樹やイワカガミが多くなる。ほぼ等高線沿いの穏やかな道が続く。標高 580m 辺りで堰堤沿いに対岸に渡る。

八風溪右岸からは花崗岩の巨岩の堆積を縫うように歩いて行く。水晶谷出合を暫く行くと谷から離れ斜面に取り付き、中峠分岐辺りから急坂となりジグザグ道が続く。中峠から標高差 200m ほど登ると道が穏やかになり一息つける。昨日の登山者の踏み跡が正確なので随分助けられる。

道の右手に三池岳が見えるようになると八風峠は近い。八風峠の鳥居はガイドブックの写真とは色が変わって赤く塗られている。深い信仰心が無いとここまで手入れはしないだろう。広々とした峠でしばしの休憩。四日市の石油コンビナートや伊勢湾、真南には釈迦岳の雄姿が美しい。

休憩後北東に向かう。シロヤシオの花芽をつけた木が多いので春には随分楽しめるだろう。小ピークを越えると急斜面の下り。新雪の下の古い雪の層が凍結しており、踵のキックステップが利かず上滑りする。距離が知れていたのもそのまま通過したが、先行の同行者の腰が引け 10m 程スリップして立ち木で止まり事なきを得た。

三池岳本峰に三角点は無いが展望が良い。琵琶湖を囲む比良山系の白い山並み、北には竜ヶ岳や頭が雲に隠れた御池岳辺りが見える。南東にある三角点まで行ったが三角点は灌木が茂り展望が悪く三角点は雪の下。

昼食の時間だが、少し寒いのでお菊池まで足を伸ばす。池に到着するが名札があるが池は雪に埋没していた。平坦部の面積から推察しても身投げが出来るほどの大きさの池は出来ない。伝説とはそんなものか。

食事後下山にかかる。お菊池から下部は痩せ尾根の急斜面。アイゼンを着けると岩や木の根で引っかかる恐れがあり判断に困るが、そのまま登山靴で下ったが厳しい下りの連続だ。イワカガミやシャクナゲなどの木があるが、鑑賞する余裕は全くないだろう。足元に全神経を集中して下る。このコースは登りに使っても随分苦労するだろう。

★メンバー 三鍋・他1名 ★コース 登山口 9:35～水晶谷出合 10:26～坂中地藏 10:58～八風峠 11:34 発 40～三池岳 12:03 発 05～三角点 12:08～お菊池 12:30 発 52～P500m 手前 13:50 発 54～林道 14:07～登山口 14:15